

活動名	団体名	第34回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会実行委員会
	地域	広島県広島市
	代表者	大会実行委員長 下田 達也
	支援金額	20万円
活動概要		
<p>全国のろうあ者の間に軟式野球を広くアマチュアスポーツ協調精神に基づく健全なる社会の向上及び発展を図り、軟式野球を広く普及し、会員相互を親睦、健康の増進などに寄与し、愛と夢、そして希望を育て、あくまでも公正中立を保ち、もって、ろうあ者野球祭とし、惜しみなく社会貢献を果たすものです。この大会は支部代表として選抜チームを編成し、支部総力をあげて団体日本一を競い合うものであり、輪番制として年に一度、全国各位を回り開催します。</p> <p>◆実施時期：平成21年10月9日(金)～11日(日) 3日間 東広島アクアスタジアム・御建公園野球場・国立大学法人広島大学野球場・ 広大西条総合運動野球場・広島県立西条農業高等学校野球場・ 田口コミュニティ野球場</p> <p>◆参加人数：選手参加 423人・全日本役員7人・役員20人・手話通訳派遣者2人 手話ボランティア23人・協力ボランティア14人 高校野球部スコアラーボランティア16人・プラガード女高生25人 審判派遣者45人・応援者150人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 725名</p>		



《慣れない入場行進。行進曲を感じ又応援客席に気持ちも引き締まる》



《手話通訳者(東広島市長挨拶)》



《開会式での優勝返還の様子》



《審判には大きい表情での判定の協力》

◆実施に伴う効果

聴覚障害者団体の初めての東広島市での開催。聴覚障害者と初めて接する野球関係者や応援者など聞こえない障害者野球を直に見て頂き、静寂な野球の中にも、白熱した場面での凄みを味わったとみなさんからの声が届いた。又、入場行進は、吹奏楽部の方に来ていただき、入場行進に慣れないチームの行進をした。

開会式に出席された健常者の人たちは、耳が聞こえないのに？という質問が多かったのだが、我々聴覚障害者でも、音の振動で気持ちが高揚し、演奏風景を映像にしながら、チーム一体で入場することは、試合前のチームの心を一つにしてくれた。

通訳関係の広島県手話の会の人たちは、なかなか一度に沢山のろう者と会う機会が少なく、触れ合うこともないのだが、ろう野球を経験してくれとてもいい勉強になったし、ろう者野球をよく理解できたとコメントがあった。又、審判の方にもろう野球では、キャッチャーへの声かけ方法や、身振りを大きくすることで、ろう者に通じることを知っていただき、我々ろう野球への理解をしてくれた。

又、一般の地元の皆様には、大会に参加した選手たちの買い物や食事、宿泊で我々のことを少しでも理解して頂いたことだと思っている。

◆苦労した点

まず、障害者野球の予算において、ろう野球者の会員は社会人であるが、障害者がなかなか就労できない経済状況の中、会員の負担を抑えなければ人数不足で開催が不可能になることに於いて、非常に苦労をした。

次に、健聴社会への、依頼・交渉が大変困難であった。聴覚障害者が健聴社会とコミュニケーションをとる場合、通常は電話ですぐに済むようなことでも、実際に出向いて、筆談で依頼・交渉し、変更があれば、再び出向いて、と言う具合に、多くの労力が必要になる。

それは、開催においての球場確保や準備、後援者への連絡、お願い、宿泊施設、内容は省略するが、総て筆談で行った。筆談であると細かい内容を伝えるのは難しく、時間もかかる。

そして、手話通訳者は通訳者センターへの事前の申し込みをすればはじめて派遣してくれる。又、時給2千円の支払いをしなければならず、とても時間も予算などもない。大事な話しは通訳者を同伴してくれと要望があるが、なかなか時間調整もスムーズに行かず、健聴者社会への交渉の大変さを痛感した。

外部PRは、地元の手話の会などに口コミをすること、又、協賛願である程度のPRはできたのだが、新聞や、映像でのPRをするのに、早めのFAXなどでの連絡をしたが、どうなっているのか様子を見ることができず、早い段階だと、実際に開催する頃には、新聞社も忘れてしまうとの情報を後から得たため、その辺を今後どうしていいのか考える必要がある。

大会当日は、関係者が離れたところにいる場合には、指示を送るのに、とても苦労をした。

開会式において球場内準備をするために離れた関係者に連絡をするには、走ってその部署に行き手話で伝えなければならない。我々の伝達手段が、手話であるからである。

吹奏楽部、旗を掲げる係り、又、来賓者への伝達、すべてに目が行き届かないし、同時作業が出来ない。

又、試合は、6球場へのバス手配をし各球場への選手を送り又迎えに行くのだが、集合には、その選手たちを呼び込むのにも、見える範囲でしかできない。居ない選手は、見つけて肩たたきで選手にしらせる。集合場所も知らせてはあるが、連絡が少しずれたりするともう大変である。時間の関係もあって早く選手を見つけて集合させたいのであるが、たまたまトイレに行っていたりすると、かなり時間をロスしてしまう。選手集合に関しては、かなり苦労した。

◆今後の課題・発展の方向性

早めの準備と、連絡方法などをよく考え話し合う必要がある。

より多くのろう者に野球の面白さを伝え、又、手話で学ばない学べない環境であるがため、これからは、手話で学べる野球の技術やルールを教える人材の育成や教室を開き、ろう野球の向上に努めたい。

又、健常者野球との交流の場を作り、我々とのコミュニケーションを図りたい。

そして、手話ができる野球関係者が増えてくれるように、我々ももっと、社会へろう野球をPRしていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

聴覚障害者団体のろう者に日ごろコミュニケーションができない仲間と同じ場所で競い合い、又友情も深めたと感じている。

広島実行で初めての開催地で不安があったが、無事、終了できたことが、なによりである。

しかし、たくさんの事を勉強した大会でもあった。より深く聴覚障害、コミュニケーション障害の弊害をどうしたら少しでも緩和できるのか難しいことでもあったが、大会実行に関わることで、経験した。